



泡-うたかた-  
2007

海の空こ

## まえがき

---

五行歌を続けてきて過去歌を振り返ると、たくさんの思いがつまっていたことがわかる。あのときも今も私は誰かにささえられている...ということも...

水没した森で  
鳥にかわって  
魚が泳ぐ

何度も  
メールチエックして  
いったい  
誰からのメールを  
待ってるのあたし

二十年主婦の  
妹の手が  
母とおんなじ  
ガサガサで  
ちよっぴり焼きもち

毎  
日  
あ  
ん  
な  
に  
あ  
つ  
た  
か  
ん  
の  
抜  
け  
殻  
は  
た  
回  
収  
で  
も  
さ  
れ  
た  
の  
か  
秋  
で  
す

右からよむか  
左からよむか  
まだしらないか  
五歳の  
あいうえお

うさぎを抱いて

眠る月

今日は

ペルセウス流星群と

おどろう

なまぬるい  
杏仁豆腐を  
つついて  
一人の昼を  
満喫する

葬儀とは  
生者の  
自己満足  
ぜったいに満たされない  
自己満足

どうしても  
ジツとしていられなくて  
毎日  
病院へ  
父を見舞う彼

アスファルトの  
隙間に  
蟻の巣  
こんなところにも  
土はある

思い出を  
つかまえておくように  
話したいと  
眠ったままの父に  
語る彼だ

不幸を  
数えるのは  
やめよう  
雨だつて  
数え切れないのだから

瞳とじれば  
また  
桂浜の  
なみおと  
たたきつけられた青

少しくらい  
のろのろしてもいい  
東京は  
いつだって  
杓子定規だから

空がぬけた  
音がした  
不幸を知らせる  
不意の  
電話で

こんなにも  
怒っていても  
お腹は  
グーで  
なりだす

眼鏡  
はずしたら  
簡単に  
席をゆずれた  
バスの中

人を傷つける  
言葉の  
刃は  
同時に  
自分をも傷つける

どれだけ  
人のせいにしても  
満たされない  
ほんとうは  
自分のせいだから

ホチキスで  
止めた  
昨日のうた  
今日になったら  
色褪せた

水族館の  
亀は  
いつだって  
海へむかって  
ひれを漕ぐ

運命なんて  
信じない  
といいながら  
朝の占い  
必ずチエツク

ゆで卵の匂い  
させながら  
一年生は  
パタリと  
眠る

いったい  
いくつの  
涙が  
こぼれおちたのか  
この海は

一緒に  
飲んで  
笑って  
ここまで来たよ  
まだまだ行こう

布団と  
布団の間に  
約  
十cmの  
ふたりの隙間

また  
ひとつ  
キーケースから  
鍵を  
抜く

言えなかつた  
ことばは  
胸の中で  
重く大きな石碑に  
育つていく

ねこじやらしの束  
つかんで  
ママじやらしー  
と叫んで走ってくる  
にげろー



泡（うたかた）-2007-

海の空こ 著

2010/12/10 発行

2010/12/26 PDF用に印刷してみたら、自分の思っていたものと違っていたので更新

以上 誤字脱字のない限り 完成